

(様式2)

令和4年度佐賀大学研究者国際交流支援事業報告書

令和4年1月22日

国際交流推進センター長 殿

事業責任者 (申請者)

学 系 自然科学域理工学

職 名 教授

氏 名 大渡啓介

下記のとおり令和4年度佐賀大学研究者国際交流支援事業の実施結果について報告します。

1.国際研究集会名	2022年度第4回西九州化学工学懇話会講演会		
2.事業責任者 (申請者)	大渡啓介	3. 所属・職名	理工学部化学部門・教授
4.開催期間	令和4年10月19日～令和4年10月19日		
5.申請区分	A) 学術交流協定 (大学名)      B) 共同研究 <b>C) 一般</b>		
6.参加者数 ※参加者名簿 (別添) を添付	参加者数 (概数)      41名 内、外国人数 6名、研究者数 15名、 学部学生数 8名、修士以上学生数 16名		
7.招待講師	所 属 <u>ドレスデン・ロッセンドルフ研究所</u> 職 名 <u>主任研究員</u> 氏 名 <u>Holger STEPHAN</u>		
8.支出額	金 額 <u>15,000 円</u> 【内訳】 <u>謝金</u> <u>15,000 円</u> <u>旅費</u> <u>0 円</u> <u>消耗品費</u> <u>0 円</u>		
9.国際研究集会の内容	Bimodal Chelating Systems for Molecular Imaging (分子イメージングのための2つのモードを有するキレートシステム) について、講演していただいた。化学のみならず、生命、物理などの科学、農学、医学など多くの分野の研究者の参加を希望して申請を行う。申請者はドレスデン工大と学術交流を有しており、講師はその出身者で、これまでに弊学に2回 (1994年、2003年) 来学いただいております、今回が3回目の訪問となった。		

上智大学の早下隆士先生(佐賀大学理工学部の助教授であった)をホストとするJSPSプログラムの招聘者として、上智大、北九州市立大、九州大学、東大を順次回るプログラムに弊学も加えていただいている。

#### 10.事業実施による成果・今後の事業の発展等

講師は原子力関係のロッセンドルフ研究所に所属するが、ドレスデン工科大学でも助手を務められた経歴があり、申請者とは30年来の付き合いがあり、これまでに2度弊学を訪問されたご重鎮である。年齢的には、直接的に今後の展開が望める相手ではないが、講師の出身であるドレスデン工科大学との交流は継続しており、現在も相互に修士学生を送り合って交換留学が行われている。その最中での訪問であり、ドレスデン工科大学との交流は強固になっている。また、研究としては申請者は金属分離剤の開発を専門に行っているが、医学系の分野に応用できる可能性が示されたことは意義深く感じている。また、今回の講師の訪問はJSPSプログラムの招聘であったが、国内の研究者との深い連携によって講演会が行われ、彼らとの交流も有意義であった。

※欄内に収まらない場合、適宜、行を追加し、ページを増やしていただいても構いません。